

区 分	内 容
会 議 名	第2回前橋市立図書館新本館構想策定プロジェクト会議
日 時	令和4年1月27日（木）10：00～11：00 図書館地下講堂
出 席 者	吉川教育長、藤井教育次長、都所指導担当次長、金井都市計画部長、片貝総務課長、井野教育施設課長、上野文化財保護課長、相原学校教育課長、関口生涯学習課長、阿久澤青少年課長、金井総合教育プラザ館長、若島図書館長、飯塚市街地整備課長 【外部委員】 福田理事長（前橋工科大学）、植木理事長（前橋中心商店街協同組合）、稲田専務理事（前橋商工会議所）、日下田企画局長（前橋デザインコミッション）
趣 旨	図書館新本館基本構想公表までのスケジュールについて情報を共有し、図書館新本館基本構想（案）について報告を行い、意見交換を行うことを目的とする。
会 議 内 容	【開会】 規約に基づき、吉川教育長が議長となる。
教育長	手元の次第に基づいて進め、すべての議題の説明が終わった後に質疑応答の時間をとる。 まず議題1、前橋市立図書館新本館基本構想（案）について図書館から説明をお願いしたい。
図書館長	議題1 前橋市立図書館新本館基本構想（案）について説明
教育長	続いて議題2、今後のスケジュールについて図書館から説明をお願いしたい。
図書館長	議題2 今後のスケジュールについて説明（資料2）
指導担当次長	【意見交換】 ミッションやビジョンにて、本もそうだが人との交流というところに焦点を当てているところが良いと思う。今後図書館が進んでいく中で、紙の本やデジタルの書籍の充実とともに、交流スペースの充実が求められると考えている。個人でゆっくり読書に親しむとともに、中心商店街等の地域の方や学生・児童生徒が図書館に集い、自分たちが活動していることを他の人に伝えることから交流が生まれると思う。具体的な例とするとビブリオバトル等の会場として活用できるスペースがあると良いと思う。今後のスケジュールやパブリックコメントの説明があったが、広く市民の意見を募集することは良いと思う。 1つ確認だが、新本館を開設するスケジュールや設置の場所については、以前の資料だと約10年後に東街区でとなっているが、変更はないか。

市街地整備課長	東街区ということで都市計画決定の手続きも進めている。スケジュールも令和11年度中の工事、令和12年度の開館を目標に進めている。
稲田委員	<p>基本構想ということで、ビジョンや図書館のあり方等の基本的なことから、なぜ街中に開館するのかというところも網羅されていると思う。「おわりに」で図書館に対する熱い思いが書かれており素晴らしいと思った。</p> <p>前回の会議で話があったが、現在の前橋があるのは糸の歴史があるからだと思う。前橋のまちの元々の市街地に図書館が開館することで、生糸の歴史の資料を充実してもらいたい。現状市民が生糸のまち前橋ということを実感するものがほとんどないため、図書館に伝えていってもらいたい。</p> <p>基本構想ができあがって令和12年度の開館ということで、今後基本計画を策定すると思うが、そのスケジュールはどうなるのか。</p>
市街地整備課長	再開発事業の中で今後基本計画や設計が始まっていくが、現状の予定だと今年の6月くらいから再開発事業全体の基本計画を含めた基本設計を始めて、1年程度かかると考えている。その後実施設計、順調にいけば令和6年度中の工事着工が見込まれる。
図書館長	街中に移転することは決定事項だが、規模や構想を基にしてどのような設備・サービス・機能・デザインにするかといった具体的なことを考えていく。整備検討委員会や教育委員会の中でも検討し、この基本構想を実施するための具体的な計画を考えていきたい。
教育長	基本構想はコンセプトやビジョンを示しているが、実際に図書館を作るにはより詳細な計画が必要になるため、スケジュールと照らし合わせながら考えるということではどうか。
図書館長	はい。
日下田委員	<p>ビジョンは言葉の感覚からみると、方向性の大きなところとしてパッシブな存在かアクティブな存在かという二択があると思う。一般論として本屋は働きかけて本を買わせるというアクティブアプローチをする施設。図書館は伝統的に知識を求める人に応えられるものを用意するというパッシブな存在。ただ、ワークショップの話や最近の図書館トレンドを見ると、どちらかというパッシブからアクティブに向かっているというのが世界的な潮流だと私は感じている。今回のビジョンはどちらかというトラディショナルな、パッシブな図書館を堅持していく判断が行われたのではないかと感じた。</p> <p>前回マクロデータを見てどういったポジショニングをしていくかの話をしたつもりだが、今回の資料を見ても残念ながらマクロの話はない。ミクロについても統計的に変化が見られるところがわずかに1ページの3分の1だけで、アンケート調査にはページ数が割かれていることに違和感を持った。公共事業では何に基づいてどういう成果を出すのかをある程度数字で出すべきところだが、</p>

教育長	<p>あまり議論されていない。令和2年の数字はイレギュラーだと思うが、平成28年から令和元年まではコロナ要素が入っていない数字で、この4年間で利用者数や一人当たりの貸出数は減っている。これを問題視しているのかしていないのか、数字上どういうゴールを設定しているのかが見えてこない。一人当たりの貸出数で言えば本館と分館のマイナス率の差はなぜ出るのか、どう差を埋めていくのか、こども図書館はプラスになっていること等を分析しているのか、どう考えているのか。</p> <p>教育長としての考えだと、パッシブ・アクティブの選択をしたということはないと思う。よりアクティブになるように対話を進められるようにと考えている。図書館だけではなく市内の本屋や分館、学校図書館等がより融合して使えるべきではないかという思いを持っている。前回日下田委員に指摘をもらっているため図書館も検討してきたと思うが、構想に反映されていないということについてどう考えているか。</p>
図書館長	<p>今回の基本構想には資料編としてデータを集めて載せたのみとなっているが、図書館では毎年利用者アンケートや実績等も取っており、それらを分析して次にどう活かしていくかを個別に検討している。基本構想には細かな資料になってしまうため載せてはいないが、データに基づいて明らかになった課題について検証しながら、次の計画に活かしていきたい。本館や分館についてはそれぞれ違った利用者の傾向があるが、図書館を多くの市民に利用してもらうためにどういったテクノロジーや機能・サービスを入れていくのが良いか検討しながら、新たな図書館に反映させていきたい。</p>
教育長	<p>日下田委員と同じ意見を持っている。本来であれば構想の段階で現状の分析と課題を検証し載せるべきだという意見もある。ただ、今後細かい計画を出す予定のため、そこにこれまで行ってきた分析を載せていきたいと思う。</p>
都市計画部長	<p>前回プロジェクト会議において、当該再開発の事業概要と都市計画決定を進める旨の報告を行った。今月1月14日と16日に合計4回元気21のホールにて都市計画に係る地元説明会を開催したため、結果について報告する。</p> <p>主催者側は都市計画部と民間権利者と本市で構成する準備組合であり、当該再開発事業は一つに組合による民間事業であること、二つに主たる用途は商業・オフィス・住宅・図書館本館移転等の教育文化施設であることを説明した。参加者からは、当該複合施設による周辺道路の渋滞問題や、駐車場不足の懸念について意見が出されたが、多世代間交流の施設となる当該再開発については、図書館の移転も含めて反対意見はなく期待する声が多かったと感じている。当該再開発事業の都市計画は今年の6月頃に決定する予定となっており、その後組合において基本設計や事業計画を進めていくが、新本館のビジョンである「対話による多様な学びがある知のひろば」のような交流の場となるように、再開発の基本設計や事業計画に反映していきたいと思う。</p>
植木委員	<p>地元説明会や準備組合の総会にも当初から出席しており、商店街関係者から</p>

様々な質問がくるが、みなさん図書館については深い期待をしている声が多い。今後も市立図書館が中心市街地にできるということに期待をしながら、それを伝えていってお店の方々一人一人が図書館の役割を理解して広めていけるようにと考えている。

福田委員

ミッションの「人と本によって地域の過去と未来をつなぎ、現在を生きる人たちが求める知識を提供する」は絶対作り替えないといけないと思う。なぜかという、知識を提供することについてはインターネットに絶対勝てない。これが過去の図書館で20、30年前の議論であれば「知識を提供する」でよかったが、これは絶対違うと私は思っている。コンピュータのOS等を作ってきた立場で言うと、MicrosoftもappleもOSの設計の3分の1くらいを図書館情報学の人達、特にアメリカのコロンビア大学を卒業した人達がしている。

よく使われているモデルだが、データがあって、データに意味を加えるとインフォメーション・情報になる、情報が体系的になってくると知識になる、その後には知恵がある。知識を理解して考えて自分の物として消化したものが知恵となる。知恵は自分の価値観であるとか、自分が判断する基準とか、決め方とか。データ・情報・知識は基本的には情報テクノロジー、インターネットを中心としたシステムに全て置き換わるのは間違いない。ところが人工知能をいくら作ってもなかなか行けないのはその先で、理解して考えて知恵に昇華をすることは人間がもっている本当に重要なポイントとなる。その観点だとインターネットのような情報や知識がどこでも得られるということがなかった時代に、図書館に行ったら色々な情報がある、あるいは図書館の方にこの本を見たらいいというアドバイスをしてもらおうという、知識をナビゲートしてもらおう知識の宝庫である図書館は価値があったが、その時代はもう終わってきている。逆に何が必要になるかという、一人一人の方が知恵を生み出す、身につけていく、知恵がめぶくということが大事になってくる。知識がもちろんベースになるが、恐らく今回コンセプトとなっている「対話する」というところで、検討していると思っているが、私は「対話する」ということも大事なのと、一人で黙って生け花とかお茶をするとかも大事だと思っている。あるいは人との会話をすることから知恵が生まれてくるということだと思う。

そういった場所が提供されるということが凄く重要な気がしている。特に専門性ということについて、今までだと「こういう事を知りたい」と言ったら「この本です」だったと思うが、例えば納豆は心臓にいいという本を読んで、図書館に来た時に「納豆は心臓に良いという本を読んだが、心臓に悪いという本を読みたい」と言ったとすると、これはいわゆる知識であって、どちらの方が正しいと思うかは自分の判断であり知恵となる。そういった意味では知識を提供する場はベースとしてありながら、いかにしてそれを一人一人が知恵に昇華をしていくかという部分を手助けできる場所というのが、これからの図書館のあり方だと思う。日下田委員がパッシブと言っていたが、求める知識を提供する時点でパッシブである。違う言い方をするとどうしても多少上から目線的な感じを受けてしまう。本屋さんがなくなってきた中で、本にかこまれた場所がなかなかない。本に囲まれて、読みながら少しくつろぐ場所が欲しいというのは、それを見ながら考えているから。あるいはそこで話す、例えば高校生が進路について話すことは、知識を求めて

	<p>いるのではなく自分の知恵としたいということだと思ふ。</p> <p>4つのコンセプトを作っている人の中には、今言ったような話と通じているものを感じていると思う。それが十分消化されていないと思う。知識を提供するというのはこれからの図書館として定義すると、「インターネットでできる」となってしまう。</p> <p>もうひとつ、4ページの過去と未来の対話の2段落目は論理性が全然ない。この論理でいうと、人がいなくなるので図書館はいらなくなりますということなら分かる。統計等で人口減少については推測されているが、そもそも前橋市として人口を増やす方向に転換している中で、わざわざここで持ち出す必然性が論理的にはないと思う。</p> <p>それと数行下に「アーカイヴ」という言葉が出てくるが、「アーカイブ」とした方が良い。何が言いたいかと言うと、データに基づいてということと、文章一つとっても図書館の話なので論理性があつて筋が通っている必要がある。コンセプトについてもこういう時代だからこうなんだという部分も、もう一歩深めたほうが良い。市民がこれからの図書館を自分も使いたいと思うためには、構想を読んだ時のワクワク感も必要だと思ふ。</p>
図書館長	<p>図書館としては50年100年ずっと市民に愛されて活用されていきたいという思いがあるため、そこを全面に出すよう整えたいと思ふ。</p>
教育長	<p>ワーキンググループ会議等の意見の中では、アクティブな印象をもって新しい図書館を作りたいという思いが伝わってきている。ただ、文章とするとなかなか伝わらないというのが委員からの意見により改めて感じた。これからの図書館は知識の提供でなく知恵をいかに集めて、人がどのように判断し自分の人生を作っていくかを提供できる場所なのではないかと思ふ。本も大事だが、その中にいる人も大事になってくると思ふ。具体的にどのようなサービスをとすることは今後さらに意見をいただきながら構想を良くしていきたいと思ふ。</p>
教育次長	<p>通常図書館の建て替えとなると基本構想にはかなり時間をかけて、色々なデータを分析して作っていかなければならないところ、再開発のスケジュールに併せて短期間であったがここまでまとめられていることに感謝する。来年度以降基本計画・設計を進めていく中で、今回策定した構想の肉付け、さらに図書館として実施したいことを検討することをより具体化できるようなものをお願いしたい。</p> <p>パブコメの中で資料公表の場所について、各支所・各市民サービスセンターとあるが、図書館ということなのでより多く意見が集まるよう各分館にしたほうが良いか検討してもらいたい。</p> <p>各委員より忌憚ない意見をいただき、今後も活かしていきながら教育委員会としても前橋市としてもより良い図書館を作っていきたいと思ふ。</p>
教育長	<p>図書館は良い建物だが、老朽化が進み雨漏り等で大変苦しんでいる。施設の面で教育施設課から何か今後の新本館への希望等はあるか。</p>

教育施設課長	<p>現在の図書館が老朽化やバリアフリーに対応できないことが建て替えの一つの理由になっていると思う。先ほどデータ分析の話があったが、現在の課題をよく分析して新しい図書館に反映してほしい。公共施設としての役割や使命は色々あるが、バリアフリーや脱炭素化、長寿命化も必要になってくるかと思う。特に今回は再開発事業の中で行われ、市が単独で行う事業の位置づけとは変わってくるため、複合施設の維持管理の難しさ等も踏まえて、今後基本計画の中で検討してもらいたい。</p>
青少年課長	<p>学校に通いながら居場所がないと不安に感じている子どもたちにとって、本や図書館司書との対話等がある学校の図書室は、非常に大事な場所になっている。ビジョンでもあったと思うが、様々な人の居場所となるような図書館になって欲しい。</p>
日下田委員	<p>現在、ハードウェアの話として建築物の話はされていると思うが、ファシリティとしての設備の話がこれからの時代では重要になる。基本構想の中には設備に関連することは IC タグのことが少し書いてあるだけ。</p> <p>例えば Amazon 等の物流施設を見れば、仕分けから棚分け等を含めて自動化されている。図書館での排架や棚卸しをどこまで自動化するか。</p> <p>今から作る図書館はタグが付いているだけでなく、棚に戻す本が勝手に移動したり、本の劣化状況を人の目ではなくモニタリングできたり、ユーザーからのフィードバックがすぐ関連される等の最新のバックヤードがあれば、日本で一番注目される図書館になると思う。ユーザビリティの話ではなくバックヤードの話は物流業界で先端的に進んでおり、IC・IT・IOT の最先端の現場なので、スーパーシティの最新の図書館はそういうバックヤードが理想的だと思う。</p>
教育長	<p>日本でもバックヤードで ICT を活用して物流倉庫のようにできているところも増えている。海外においても人の手を借りずに本の仕分け等ができている図書館もある。</p>
図書館長	<p>今後の新しい図書館としてそういったシステム、ソリューションは導入するものだと思っている。今後 IC タグに替わるようなテクノロジーも出てくるかもしれないが、現在考えられることは IC タグを導入することで、バックヤード等を効率化でき市民に対するサービスの向上に繋がると思っている。今後具体的にどこまでの機能・ソリューションを入れるかを検討していきたい。</p>
福田委員	<p>IC タグを付けるということの一つのベースプランとしながら、世界の潮流でいうと IC タグはもう使わなくなっている。ディープラーニングという画像見て判断できるようになっているため、部品等をカメラで見て個別に認識して掴んで持っていくというのが普通になってきている。そういった意味だと IC タグは一回り遅れているため、これから何年後かにできる図書館について、IC タグレスの図書館というアピールをするのも一つの方法だと思う。後からできて他のところは既にやっていることを追いかけるというよりは、その先に行ってしまうのも良いのではないかと思う。大手のところではそういった技術の採用が世界的に始まってきている。ベースプランとしては IC タグを付ける</p>

教育長	<p>ことは良いと思うが、ICなしでという時代にはなっている。</p> <p>前橋工科大学や色々な大学図書館とも連携ができればと考えている。連携するためには図書館側もテクノロジーの活用を十分考える必要がある。開館は令和12年頃の予定だが、現在の想定よりさらに進んだ状況の中で市立図書館が開館するため、世の中の状況に遅れないよう、また一歩進んだ前橋となるよう努めていきたい。</p> <p>【閉会】</p>
-----	--